

令和2年度 都城市立志和池中学校 学校関係者評価票

[ 4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する ]

評価項目	評価指標	細部評価	学校の自己評価コメント	自己評価	学校の改善策	外部評価コメント	外部評価
学校生活	(1) 学校は生徒のことを理解し、きめ細かな指導ができています。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒92%、保護者86%、教員94%。経年変化では生徒、保護者とも若干の減少。	3	○ きめ細やかな指導の捉え方が様々であることが考えられるが、保護者との連携、生徒とのラポートなど、コミュニケーションの積み重ねが重要であり、今後とも、個を大切にした指導を継続していくことが必要である。	○ 全体評価で教師・生徒共に90%以上が期待通りの評価となっている。日頃の教育実践に感謝します。 ○ 個別の捉え方で若干の数値の増減は考えられると思うが、全体評価でほぼ期待通りの評価ができると思います。 ○ 生徒も保護者もほぼ期待通りの結果になっていると思う。 ○ 捉え方の違いがあり、細かい部分の評価が難しいのではないかと。 ○ 先生、生徒、保護者、地域が一体となって協力して、学校に活気を感じる。 ○ 生徒一人ひとりをきめ細やかで個に合った指導の成果だと考える。 ○ 一人ひとりの個性に配慮し、生徒が自己肯定感を得られる丁寧な対応の成果が出ていると思われる。 ○ コロナ状況下だからこそ、家族、生徒との連絡、連携を深めて欲しい。 ○ 全体を通して、2、3、4の評価は気にはならないが、1の評価がある箇所については気になる。一人でも見捨てることのないよう宜しくお願いします。	3
	(2) 学校は生徒の努力を認め、きめ細やかな対応で生徒の個性を伸ばしている。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒91%、保護者83%、教員94%。経年変化では、生徒、保護者共に若干の減少。 ○ (1)(2)共に捉え方が多様で、回答しにくい部分もあると考えられる。(2)については生徒の4の回答が向上し59%となっている。反面保護者の4の回答は減少している。	3	○ 生徒の期待感が向上していることをプラス材料に捉えたと共に、保護者の期待に応えられるよう、生徒一人一人の存在を大切にしてい意識を再確認していくことが肝要。		
学力向上	(3) 学校は基本的な学習訓練や学習態度育成等の指導ができています。	4	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒97%、保護者94%、教員89%。経年変化では、保護者は横ばい、生徒は若干の向上が見られる。 ○ 基本的な学習訓練が定着しており、落ち着いた授業環境の中で学ぶことができている。	4	○ 次年度は、一人一人に端末が導入され、学習活動の中にICT活用が開始される。新しくなっていなければならない学習環境を創造していくと共に、これまでの落ち着いた学習環境を継続していくことが肝要である。	○ 新学習指導要領の下での教育実践に期待しています。学校が回るのはやはり、教育課程中心だと思います。その点先生方の評価80以上というは頼もしい限りです。生きる力の具現化・資質・知識・技能の理解・思考力・判断力・表現力などの育成・学びに向かう力、人間性などの涵養に期待します。 ○ 学力向上の取組等は評価できると思います。ただ、学校の改善策にもあるように、平均を下回る生徒・学習意欲の低い生徒に対しての取り組みが学力向上に繋がると思われます。 ○ 現在の学習環境+新しい学習環境(教員・生徒・保護者が一体)コミュニケーションが重要。 ○ 先生方の評価より、生徒の評価が高いのにびっくりした。先生方は自信を持って指導してください。 ○ 生徒一人一人の学力を十分把握して、細かな指導が行なわれ特に3年生は、市内でもトップクラスの成績、1、2年生も上位である。 ○ コロナ状況下だが、生徒一人一人各家庭に添った対応を今後も期待しています。	4
	(4) 学校は一人一人の生徒の理解度を把握し、個に応じた指導を行っている。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒93%、保護者81%、教員83%。経年変化では、保護者、生徒共に若干の向上。 ○ 苦手意識のある生徒や、課題未提出者などの指導を粘り強く取り組んでいる。	3	○ 生徒一人ひとりの学力を把握し、平均を下回る生徒・学習意欲の低い生徒に対しては特に、学ぶ動機付けを行っていく努力が必要である。 ○ 数値として表れる学力のほかに、学習に向かう力を身に付けさせ、学びに向かう姿が家庭で見られることが保護者の期待に添えることではないかと捉え、自ら学びに向かう力を育成していく努力をしよう。		
	(5) 学校は適切な評価と指導方法を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図っている。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒96%、保護者83%、教員88%。経年変化では生徒・保護者共に若干の向上。 ○ 教材研究に取り組むと共に、丁寧な授業づくりに取り組んでいる成果が出ていると思われる。	3	○ 教材研究に取り組むと共に、丁寧な授業づくりに取り組んでいる成果が出ていると思われる。		
心の教育	(6) 生徒は挨拶や服装・髪型などの基本的な生活習慣を身に付けている。	4	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒95%、保護者98%、教員100%。経年変化では、生徒は横ばい、保護者は若干の向上。 ○ 生徒の規範意識は学年を上がるほど向上している様子がうかがえる。上級生が模範的に生活をしていることが良い見本となっている。	4	○ 挨拶をしない生徒はいないが、声の大きさや会釈の姿など、改善していく点を再度見直していく。 ○ 生活習慣、規範意識の面で、SNSに関する啓発がさらに必要である。 ○ 外部機関との連携で、不登校の解消に取り組むと共に、家庭との連携を図り、改善に努める必要がある。	○ 問題なく志和池の子どもには、一住民として誇りに思っています。継続してください。 ○ あいさつ等申し分ありません。声の大きさの指摘は地域性でしょうか。持っているの力を出し切っていない等とも関係するようです。 ○ 自己存在感等の育成。部活動外部との試合、発表、体験の機会を持たせ、自身を持たせてください。 ○ 挨拶を含めた生活習慣については、地域の方々からも高評価を得ており、個人的にもすばらしいと思っています。 ○ 不登校問題に関しては、様々な理由があると思われそうですが、問題解決に向けて慎重な取組が必要と考えています。 ○ 学校行事の縮小、変更で生徒達の不安も心配されたが、生徒たちなりに充実した生活が送れていると思われします。 ○ 生徒、保護者共に若干の減少は見られるが、目に見えない部分は評価が難しい。 ○ 生徒一人ひとりが立ち止まり挨拶をしてくれる。 ○ コロナ禍において、学校行事も縮小、変更となったが体育大会、文化祭など活気に満ちて充実した中学生を送っていると感じた。 ○ クツ箱も整然といてすばらしい。 ○ 学習にICT導入が広まり、より生徒の身近にインターネットSNSなどが存在している。新しい世界なので、生徒自身にも規範の必要性、理由、具体的な啓発活動法を問い、一緒に考えてはどうか。	3
	(7) いじめや不登校等の問題も含め、生徒には思いやりの心が育っている。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒96%、保護者87%、教員78%。生徒、保護者共に若干の減少。 ○ 教科としての道徳への取組、命を考える日の定期的な実施など心情面の育成を図る取組を行ってきた。 ○ 教育相談週間、いじめアンケートの定期的な実施において把握した事案への対処をすばやく行ってきた。	3	○ 現在の状況が引き続き次年度も続いていくことも考慮しながら、行事の内容や生徒の活躍の場の設定を工夫していくことが必要である。		
	(8) 生徒は一人一人が存在感をもち、学校生活が充実している。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒91%、保護者92%、教員89%。生徒は若干の減少、保護者は横ばい。 ○ 学校行事の縮小、変更した形での実施、中止などが相次ぎ、生徒一人ひとりが学校生活の充実を感じられるか活躍の場が減少したと考えられる現状でも、充実感を感じられている。日常生活において、充実した生活が保たれているのではないかと。	3			
保護者・地域との連携	(9) 学校は保護者や地域社会への情報発信を積極的に推進している。 【生徒のみ】健康や安全に気を付けて生活している。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒96%、保護者88%、教員94%。生徒は若干の減少。保護者は若干の向上。 ○ 各学級担任がこまめに学級通信を発信している。また安心・安全メールの加入率が約98%となり、緊急の情報発信がスムーズになった。 ○ 一年を通し、感染防止に取り組む生活の確立を目指した。	3	○ 情報発信については、保護者、教員ともに3の段階が多いので、さらに工夫していく余地がある。ホームページの更新は、積極的に行っていくことが必要である。 ○ 引き続きコロナ感染防止策を行い、感染防止に努めていく。	○ 保護者、地域の方、志和池出身の中には、素晴らしい方がいます。古墳なども万ヶ塚という地名があるように地域に点在しています。学社連携も今まで通りの実践を。 ○ 次年度の学校運営協議会印に学校便りを配付して欲しい。 ○ コロナ禍にあって、さまざまな行事、行事に伴う準備などにおいてPTA地域住民の参加が困難な状況でしたが、学級通信、安心・安全メールなどの活用によりスムーズに対処でき取り組めたと思います。今後も継続してもらいたい。 ○ 生徒たちは、健康・安全面での考え方取り組み方への意識が備わったと思われします。 ○ 地域とのつながり、ボランティアへの参加をもっと推進して欲しい。 ○ 情報発信では、ホームページの活用により、保護者、地域との共有が行なわれており、更に充実した情報発信に期待している。 ○ 保護者のアンケートでも3、4が多い。 ○ コロナ状況下において、ボランティアの取組が例年と比べて困難であった。地域におけるボランティア全般の困難な状況とその影響コロナリスクと一緒に調べる・社会の中でボランティアの重要性とコロナ下での可能性・コロナが落ち着いた対応できるようにしたらどうしたいか一緒に考えてはどうか。	3
	(10) 学校は学校行事への参加呼びかけと地域住民の人材を積極的に活用している。 【生徒のみ】ボランティア活動を進んでいるか。	3	○ 期待以上・ほぼ期待通りの回答が、生徒45%、保護者86%、教員79%。生徒は14%の減少。保護者は若干の向上。コロナ禍にあって、ボランティア活動に参加が困難な状況が続いたため、期待度に沿わなかったと考えられる。 ○ 感染対策を行い、できる範囲で行事を行った際には、PTAの協力が大変力になった。 ○ 外部人材の活用が困難な状況の中「読み聞かせ」は定期的に活動をお願いした。また、施設遊をされている水彩画教室の作品を美術の授業の中で活用するなどの工夫をした。	3	○ 次年度も感染状況を考慮しながら、地域とのつながりを模索していく。 ○ 校外のボランティアの募集が期待できない状況が続くと考えられる。校内における、生徒の自発的な活動を工夫していくなど、現状でできる範囲のボランティアの取組をしていく。		